



各 位

2022年12月26日
株式会社 東京一番フーズ
代表取締役社長 坂本 大地
(コード番号 3067 東証プライム)
問 合 せ 先 常務取締役 掛川 洋一
(TEL. 03-5363-2132)

上場維持基準の適合に向けた計画に基づく進捗状況について

当社は、2021年12月15日に、プライム市場の上場維持基準への適合に向けた計画を提出し、その内容について開示しております。

2022年9月時点における計画の進捗状況等について、下記のとおり作成しましたので、お知らせいたします。

記

○ 当社の上場維持基準への適合状況の推移及び計画期間

当社の2022年9月時点におけるプライム市場の上場維持基準への適合状況はその推移を含め、以下のとおりとなっており、流通時価総額、平均売買代金については充たしておりません。当社は、下表のとおり、流通時価総額、平均売買代金に関しては2028年9月末までにそれぞれ上場維持基準を充たすために、引き続き各種取組を進めてまいります。

		株主数	流通株式数	流通株式時価総額	流通株式比率
当社の 適合状況及 びその推移	2021年12月末時 点※1	4,055人	40,590単位	23.8億円	45.4%
	2022年9月末時 点※1	3,943人	39,220単位	23.1億円	43.6%
上場維持基準		800人	20,000単位	100億円	35%
当初の計画に記載した 計画期間				2028年 9月末	

※1 当社の適合状況は、東証が基準日時点で把握している当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

○上場維持基準の適合に向けた取組の実施状況及び評価（2021年10月～2022年9月）

(1) 【流通株式時価総額】について

・取組の実施状況

① 「新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書」（以下計画書という）における取組

2021年12月15日に提出した計画書における取組は、新型コロナからの回復、寿し常のシナジー効果の発揮、養殖事業の強化、外販事業の強化の4つを成長戦略としておりました。また、計画書における2022年9月期は、新型コロナウイルス感染症の影響から市況が回復し、寿し常の事業譲受の効果が発揮されることで利益水準が押し上げられる期間と位置付けておりました。

2022年9月期の取組としては、新型コロナからの回復については、店舗ごとの動向を踏まえた機動的なキャンペーンを打つことや価格改定の施策等を実施しております。また、寿し常のシナジー効果の発揮では、寿し常のオペレーションの改善や本部機能の統合による効率化を継続しております。養殖事業の強化、外販事業の強化については、今後の施策検討を継続しております。

② 株式の立会外分売

上記の評価対象期間外ではございますが、2022年12月13日に開示しました通り、代表取締役社長の坂本大地が株式の分売を行っており、流通株式比率を高めて流通株式時価総額の上昇を図っております。

・取組に対する評価

① 計画書における取組

2022年9月期の利益水準は概ね計画通りの進捗であり、2022年9月期の取組には計画数値達成への効果があったものと想定しております。

② 株式の立会外分売

2022年12月13日に開示しております「株式の立会外分売終了および親会社以外の支配株主の異動に関するお知らせ」にも記載しました通り、取組の結果、分売予定株式数の全数の分売がなされ、当社代表取締役社長坂本大地及び合算対象の議決権所有割合は、51.08%から46.04%まで低下しております。これにより流通株式比率は約5%向上しており、流通株式時価総額の向上に一定の寄与があるものと考えております。

○上場維持基準に適合していない項目ごとのこれまでの状況を踏まえた今後の課題と取組内容

(1) 【流通株式時価総額】について

・今後の課題

流通株式時価総額が上場維持基準を充たしていない主な要因は、これを達成するために必要な利益水準に到達していないことと考えております。そのため、引き続き十分な利益水準を確保することが重要課題と認識しております。

一方で、取組に対する評価にも記載しました通り、2022年9月期の利益水準は概ね計画通りの進捗であり、2022年9月期の取組は一定の効果があったものと想定され、取組自体に対する大きな課題は生じていないものと考えております。

・今後の取組内容

今後の課題でも記載しました通り、2022年9月期の取組内容及び結果については大きな課題が生じていないものと考えているため、引き続き計画書に記載した新型コロナからの回復、寿し常のシナジー効果の発揮、養殖事業の強化、外販事業の強化の取組について、2022年9月期の取組を継続し、更なる利益改善を図る予定でございます。

なお、2022年9月期の連結経常損益は当初計画103百万円に対して、実績で274百万円と上回っており、今後の計画においても変更はございません。

以上